

こだわらない人のための

簡単 ViX 講座

コンセプト

- 手っ取り早くインストールして使う。(できればインストールは他人にやってほしい)
- とりあえず気をつけなきゃならんことだけ教えれ。
- よ一分からんけど楽に使いたい。

【目次】	
簡単ViX活用講座	1
何ができる？	1
何がいい？	1
入手	2
インストール	2
アーカイバのインストール	3
とりあえず画面構成	4
メインウィンドウ	4
画像ウィンドウ	4
画像ウィンドウの開き方	5
印刷	6
複数の画像を一気に印刷	7
トリミング	8
回転	10
複数の画像を一気に回転	11
明るさ・コントラスト・カラーの調整	12
反転とか連結とか	13
保存	15
JPEGで保存	15
保存して関連ウィンドウを閉じる	16
PNGで保存	17
減色	18
アルバム作成	19
アルバム印刷（縦横の枚数を決めて印刷）	19
アルバム保存（アルバムを一枚の画像として保存）	19
アルバムHTML（サムネイルを作成してHTMLの書き出し）	20
設定	21
カタログをすべてホームフォルダに	21
倍率調整	21
ファイルビューから新規フォルダ作成	22
ツールバーを消す	23

何ができる？

Explorer と同じようにファイルの移動・コピー・削除、ファイルを開く（アプリケーションの起動）、フォルダを開く・作る、ファイル一覧の並び方を変えるといった操作ができるほか、

- 用紙サイズぴったり簡単に印刷
- 複数の画像をまとめて縦横回転
- 複数の画像をまとめてリサイズ・色調変換・形式変換
- サムネイル^{注1)}の一覧を印刷・画像保存・HTML保存
- TWAINおよびWIA機器からの画像の取り込み
- 写真にコメントを埋め込む

などの機能を持っています。（いや、まだまだあります。）

IE4以降をインストールした Windows では画像のプレビュー機能がついていますが、これは残念ながら画像を一つずつしか表示できません。また、Windows 2000/Me 以降では特定のフォルダだけ画像のカタログ表示^{注2)}が可能ですが、フォルダが限定されますし、だいいち、遅いです。

そこで ViX を使います。



何がいい？

実は ViX の持っている機能を実現するだけなら他にも選択肢はいくらでもあります。ではなぜ ViX なのかというと、

- なんとってフリーソフトであるし、そこに作者がこだわりを持っている
 - しかもファイルサイズが大きい
 - インストーラが付属してなくて、レジストリにタッチしないので
 - 安心して試せる
 - OS を入れ直したときの復旧が楽
- ですし、

- デザインがオーソドックスなので飽きないし画面を広く使える
- 速度向上、GIF への対応など、生真面目なバージョンアップ

も重要な要素です。でも、

- 名前が短くて覚えやすいし、かっこ悪くないので人に紹介しやすい

というのかなり重要だったりします。

入手

ViX は K_OKADA さん作成のフリーソフトで http://homepage1.nifty.com/k_okada/ からダウンロードできます。まずはここにアクセスします。今のところこのサイトの構成は非常にシンプルで、ダウンロードまで迷うところはありません。アーカイブ^{注3)}のサイズはフロッピー1枚に納まる程度なので、ダイヤルアップ接続でもそれほど時間は掛かりません。(近年はかなり人気が高く、あちこちで紹介されているので雑誌の付録 CD-ROM なんかにも収録されていることでしょう。確認していませんが。)

インストール

ViX にはいわゆるインストーラ^{注4)}はついていません。その代わりに、レジストリ^{注5)}にタッチしないので、基本的に好きな場所に置くことができますし、アップデートもアンインストールも楽々です。では始めましょう。また、面倒な場合は近くの人にやってもらってください。

まずダウンロードしたファイルを確認します。

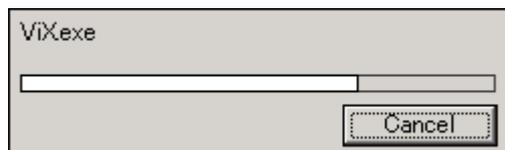


画面上でこんな風 `vix21.lzh` に見えていたとしたら、たぶんまだ ViX のインストールはできません。このファイルは(先ほどアーカイブという表現を取ったように)圧縮されているもので、そのままでは使えません。まずはこの圧縮を紐解き、使える状態にする^{注6)}必要があります。



こんな風 `vix21.lzh` に、あるいはもっと違う見え方をしている場合は、お使いのコンピュータにすでに何らかのアーカイバ^{注7)}がインストールされているので、それを利用してファイルを展開してください。(例に挙げているアイコンは Lhasa と呼ばれる、Windows で代表的な解凍ソフトがインストールされている状態のものです。このアイコンはダブルクリックするだけで解凍することができます。以降は Lhasa あるいは似たような動作をするアーカイバがすでにインストールされているものとして説明します。)

ViX のアイコンをダブルクリックします。すると



こんな感じで、解凍していることを示す表示が何か現われると思います。これが消えたら解凍終了です。解凍し終わったらできあがったフォルダを開いてください。(設定によっては自動でフォルダが開かれる場合もあります。)



ここに見える ViX のアイコンをダブルクリックすればそれだけで ViX を動かすことができま

す。ただ、普通はプログラムのフォルダはプログラムのフォルダでまとめておくので、ViX を**立ち上げる前に**ショートカットアイコンをデスクトップに置いておくことをおすすめします。方法は、

- 1) ViX 本体のアイコンを右クリック（普通は「右」になっています）しながらデスクトップのうゑにドラッグしてきて、離します。
- 2) するとコンテキストメニューが出てくるのでショートカットの作成を選びます。



これで OK です。あとは ViX のフォルダを適当なところにしまっておいてください。今後は、このショートカットアイコンから起動します。

アーカイバのインストール

お使いのシステム^{注8)}にアーカイバがまだ入っていない場合はまずそれをインストールする必要があります。アーカイバには非常に多くの種類があり、だいたいどれも十分に実用になるので、自分の好みで選べばいいと思います。例では Lhasa を使いましたが、これは十分すぎるほど有名であるという理由で選んだもので、決してこれがベストだというわけではありません。

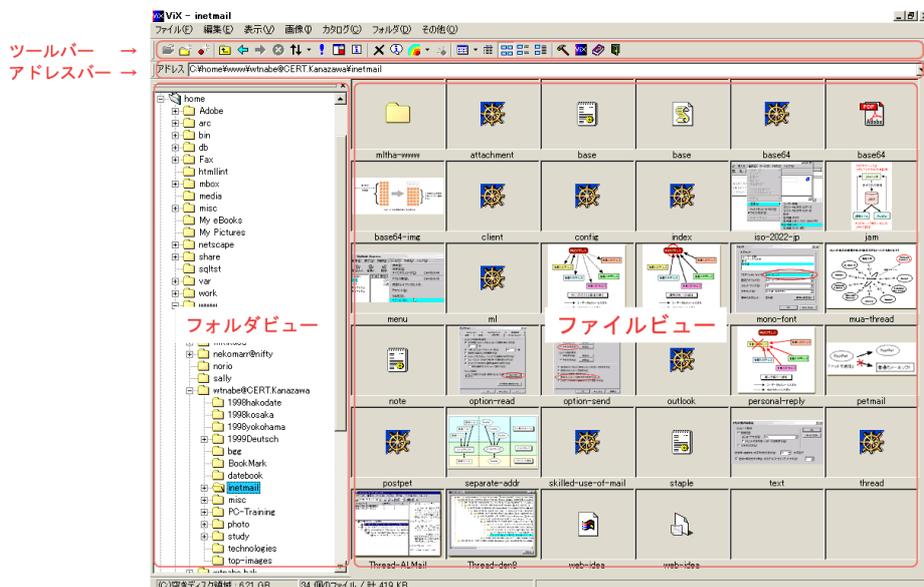
とりあえず画面構成

まず簡単な言葉をいくつか覚えてください。以降の説明が必要になります。分からなくなったらこのページに戻ってきてください。

メインウィンドウ

ViX のアイコンをダブルクリックして普通に起動した場合、まず現われるのは「メインウィンドウ」です。

メインウィンドウには（設定で見え方を変更できますが）ツールバー、アドレスバー、フォルダビュー、ファイルビューがあり、標準状態では以下のような構成になっています。（スクリーンショットは標準状態の ViX を XGA^{注9}）で全画面表示にした状態。なお、タイトルバーなど、細々したところで色の設定が標準とは異なっています。）

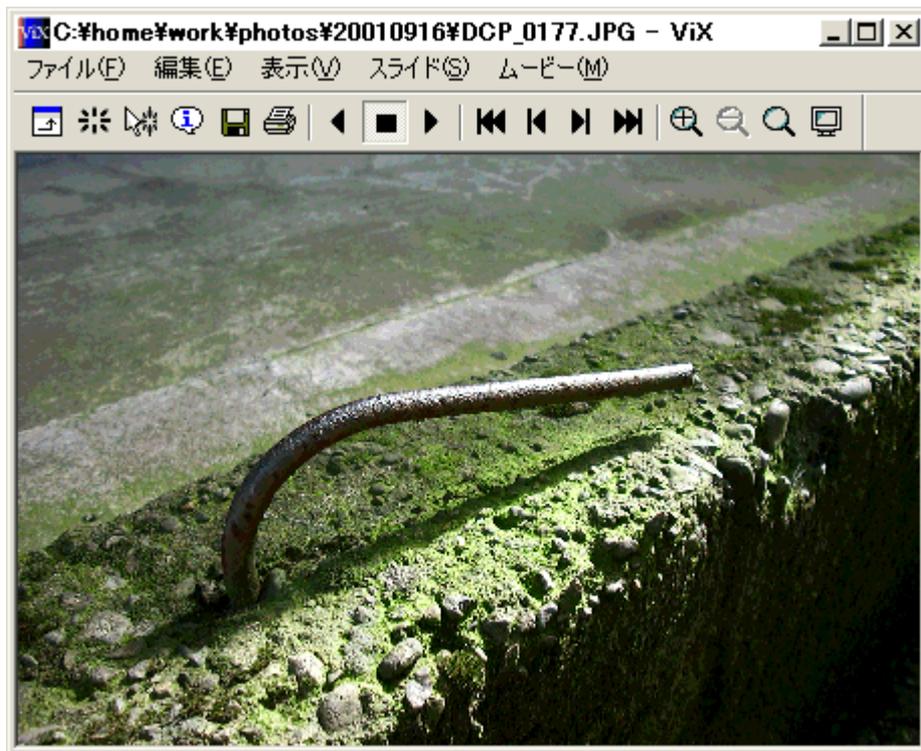


ツールバー	よく使うであろういくつかのコマンドが割り当てられている
アドレスバー	現在のフォルダの位置をフルパスで表示
フォルダビュー	Windows の標準的なフォルダのツリー表示
ファイルビュー	現在開いているフォルダの中のファイル一覧 ここが通常はカタログ表示になっている 対応していない場合はシステム標準のアイコンが表示される。

ちょっと見た目は違いますが、基本的には Explorer に近い感じになっています。

画像ウィンドウ

ファイルビューでサムネイルをダブルクリックなどで開くと、以下のような画像ウィンドウが開きます。



特定の画像に対する操作は基本的にこの画像ウィンドウをもとにして説明します。

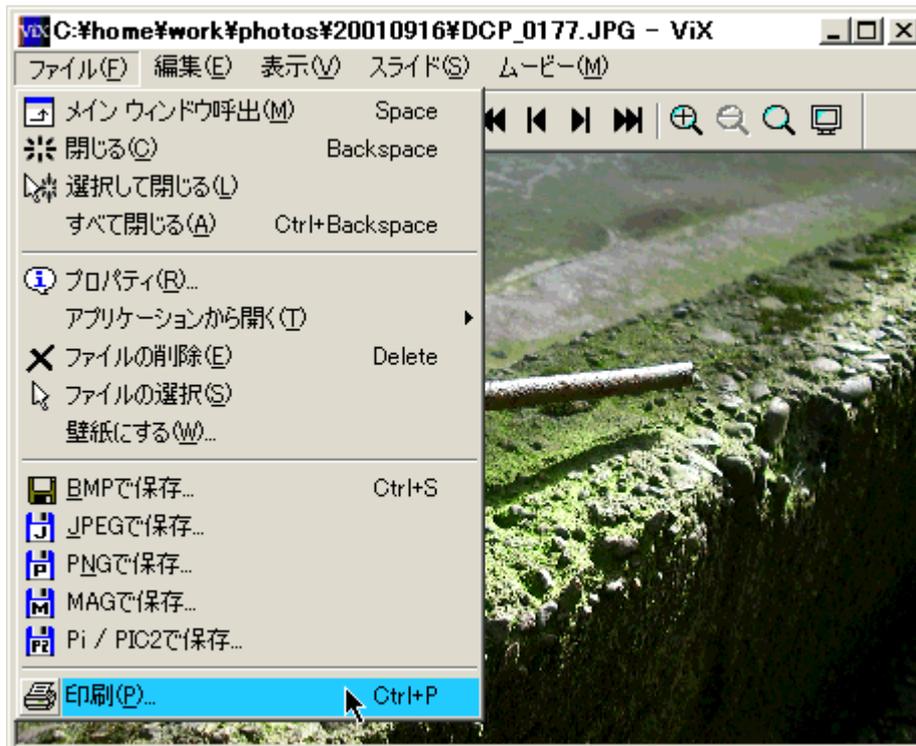
画像ウィンドウの開き方

サムネイルをダブルクリックします。このとき、誤ってファイル名の方をクリックするとファイル名の変更のダイアログが出る場合があります。

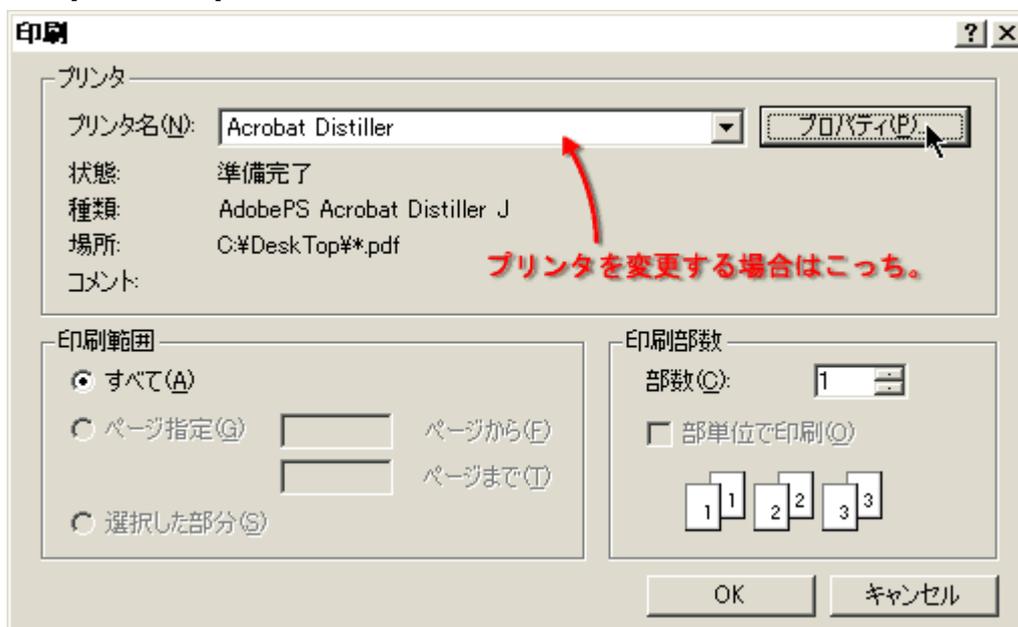


印刷

写真を印刷する場合、画像ウィンドウのメニューから [ファイル] [印刷] とします。



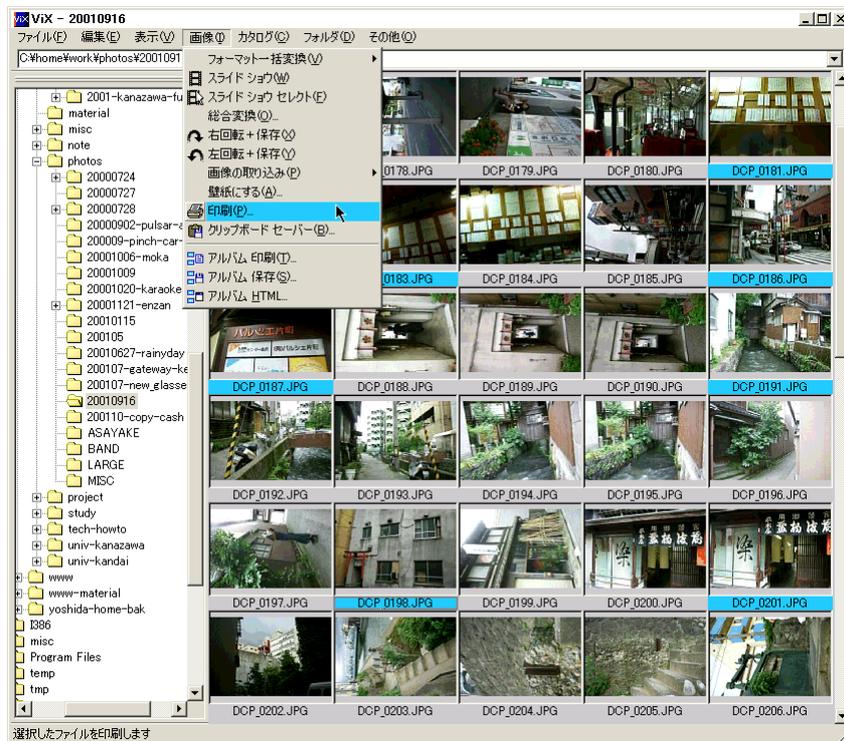
これだけで現在の用紙設定でぴったり収まるように写真のサイズを自動的に拡大縮小して印刷してくれます。^{注10)}ただし、用紙の縦横のチェックなどはしないので、印刷時に出るダイアログで [プロパティ] を押して用紙設定を行ってください。



* なお、ViX には独立した用紙設定のメニューはありません。

複数の画像を一気に印刷

何枚もの画像をまとめて印刷する場合は画像ウィンドウではなくメインウィンドウから印刷を行います。

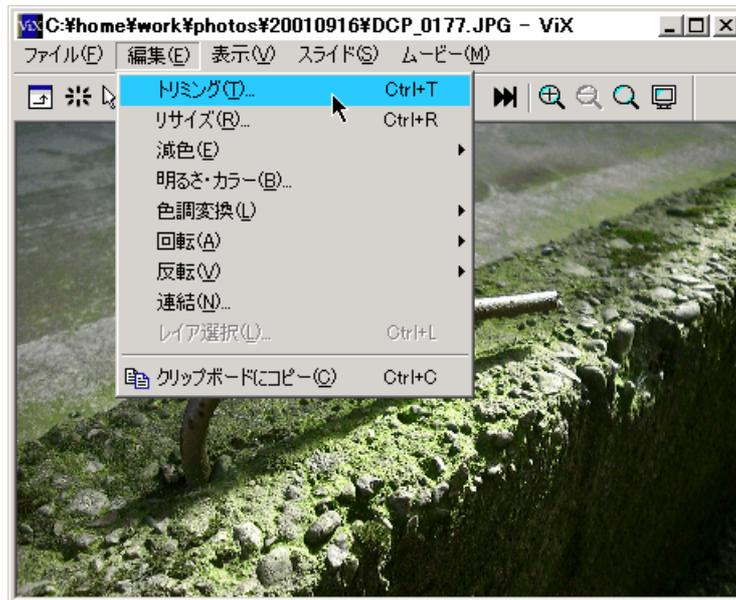


メインウィンドウのファイルビューで印刷したい画像を選び、メニューから [画像] [印刷] とします。

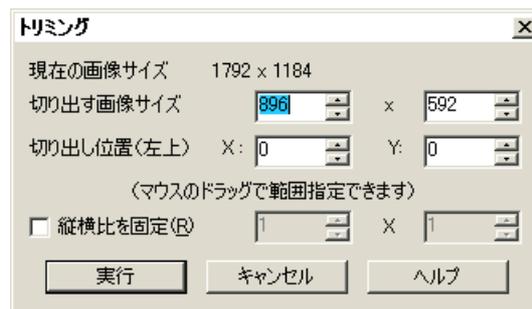
このときの印刷は先ほどの「用紙サイズぴったり一枚の写真を印刷する」ことを枚数分りかえずことになります。何枚もの写真を一枚の用紙に並べて印刷したい場合は「アルバム印刷」の方を利用してください。

トリミング

トリミング^{注11)}を行いたい画像を表示させて、メニューから [編集] [トリミング] を選びます。



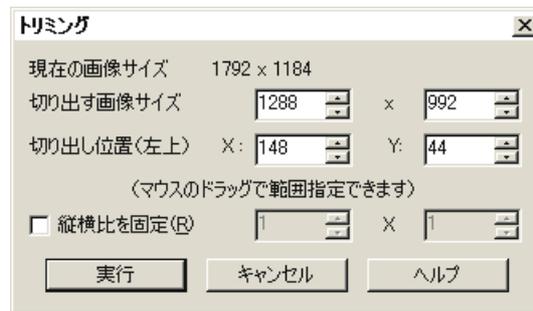
すると



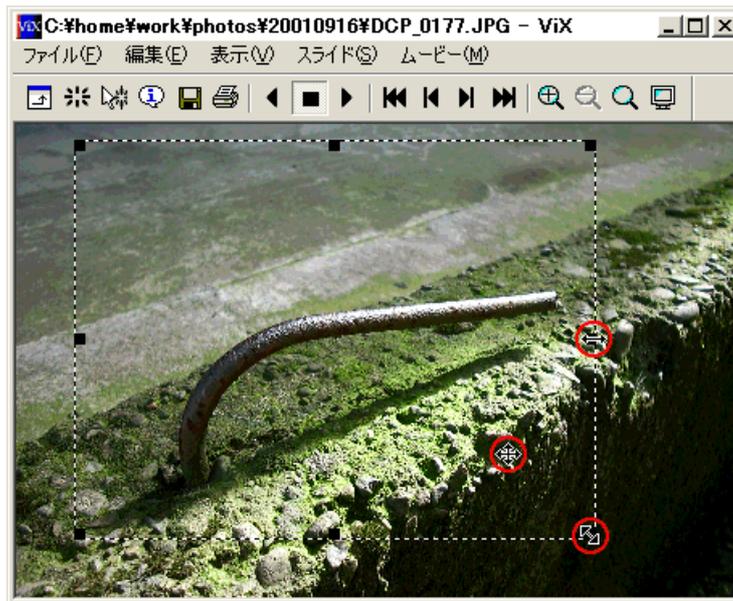
このようなダイアログが現われます。そしたら画像ウィンドウの中でほしい範囲をドラッグして指定します。



するとこのように

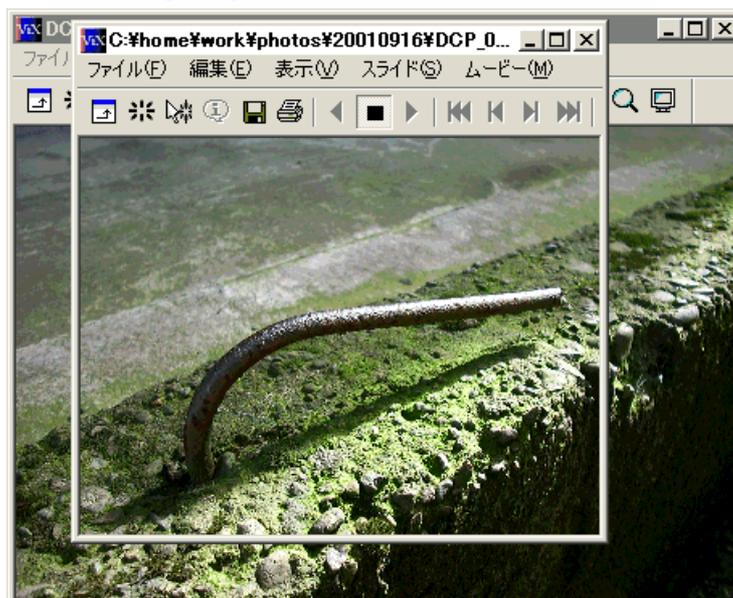


開始位置とサイズの数字が変化します。細かくサイズを指定したい場合などはこの数値を参考にします。



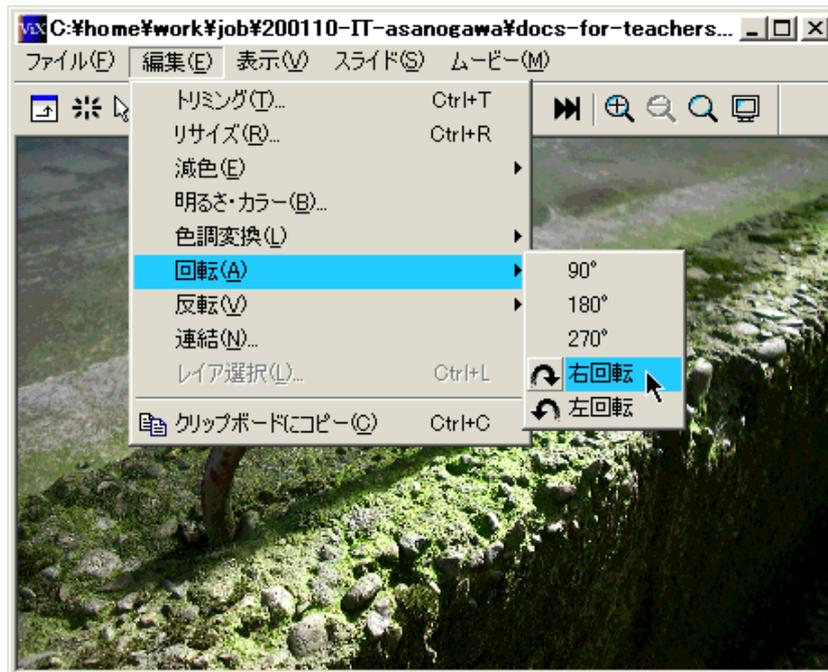
通常はこのように目で見て切り取る範囲を決定します。切り取り範囲は数値だけでなくマウスでも大きさを変えられますし、移動もできます。マウスカーソルが上のような形になるところでドラッグしてみてください。

切り取る範囲が決まったら【実行】を押します。



するとこのように新しいウィンドウが現われます。これでよければこの画像を保存します。

回転



画像ウィンドウでメニューから [編集] [回転] を選び、角度を選びます。[右回転]、[左回転] はそれぞれ 90° 回転の意味です。

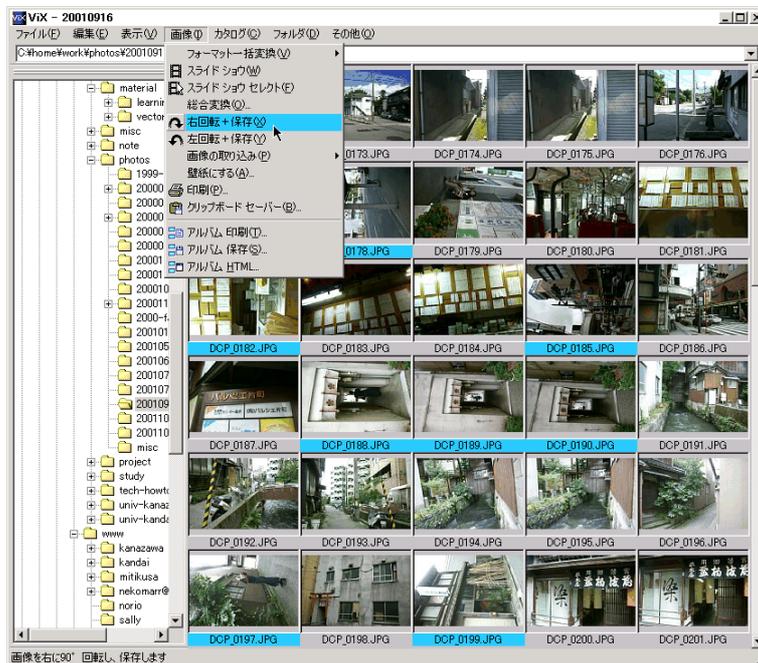


右90° 回転したところ。

* 回転の場合は新しいウィンドウを開きません。

複数の画像を一気に回転

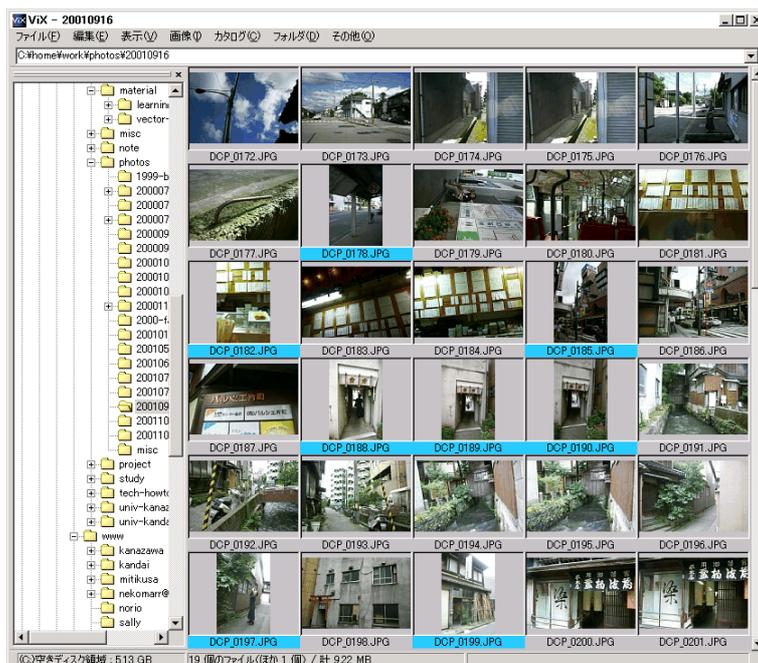
印刷のときと同じように複数の画像を一度に回転することができます。メインウィンドウで回転させたい画像を選んでおいて、メニューから [画像] [右/左回転 + 保存] と選びます。



するとこんな感じで回転の作業が進んで、、

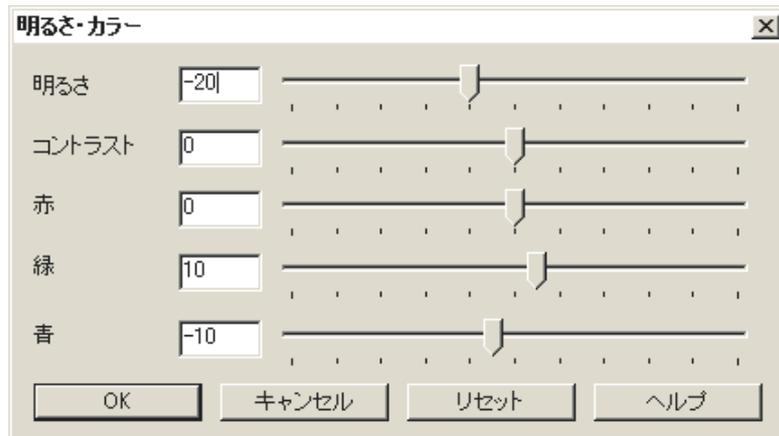


それぞれの画像を回転したものが上書き保存され、サムネイルも更新されます。



明るさ・コントラスト・カラーの調整

画像ウィンドウでメニューから [編集] [明るさ・カラー] を選びます。すると次のようなダイアログが現われます。



ここで各スライダーを左右に動かすことで画像を調整することができます。スライダーの動きに応じてリアルタイムに画像が変化するので、気に入った画像ができあがったところで [OK] を押してください。参考までに上のように調整すると下のような写真になります。



明るさを抑えて全体を暗めのトーンにしたことで逆に明るい部分が強調され、印象的な感じになっていると思います。色調も緑を増やすだけでなく青を入れることで、石や金属をはじめ全体的に引き締めてみました。^{注12)}

* コントラストとは明暗をどれだけはっきり分けるかということです。ま、やってみれば分かります。

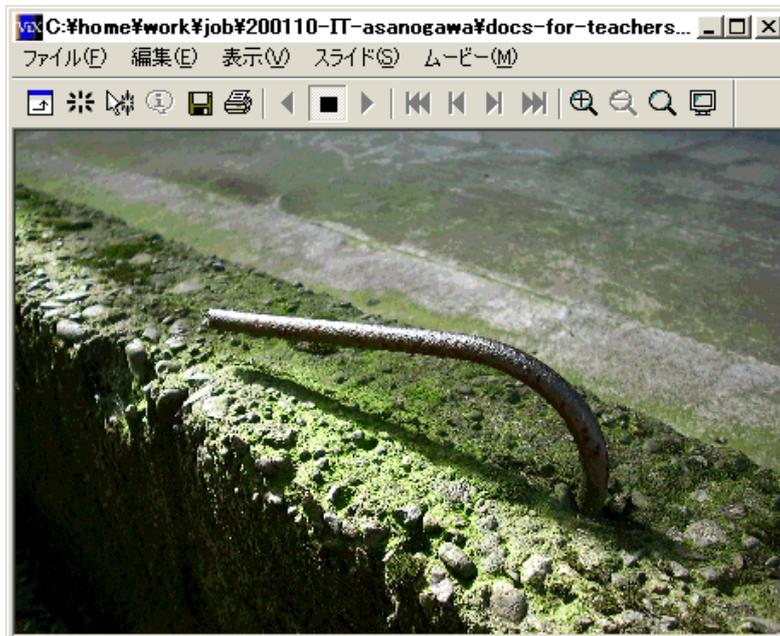
反転とか連結とか

反転

VIX は上下、左右に画像を反転することができます。例えば画像ウィンドウでメニューから [編集] [反転] [上下/左右] を選ぶと、



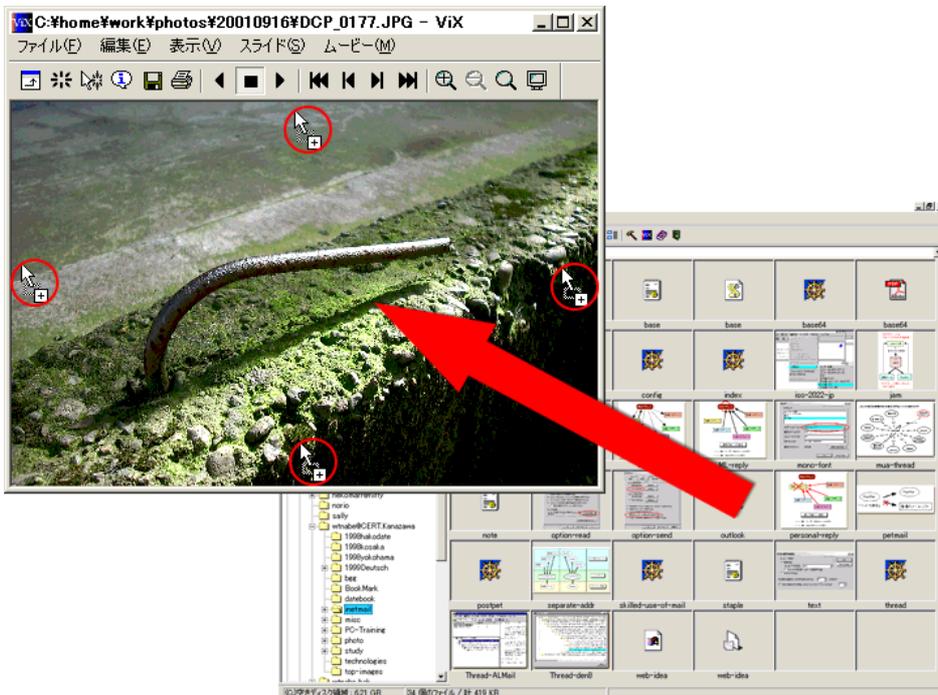
このように反転した画像が新しいウィンドウに現われます。



連結

ViX では [アルバム印刷] を除いて1枚の紙に1枚の写真を印刷することしかできません。でもそれではもったいない場合もあります。そんなときは2枚の写真を連結して1枚の写真に「連結」してから印刷します。

画像ウィンドウにメインウィンドウのファイルビューから画像をドロップすると、ドロップした位置にしたがって画像が連結されます。



例えば画像ウィンドウの下側にドロップするとこんな感じになります。(同じ写真をモノクロにしたものを連結してみました。)



ただし、画像サイズが合っていないといびつな形になりますので注意してください。同じ設定で撮ったデジカメの写真ならうまくつながりますが、トリミングしたりするとサイズが合わなくなるので注意してください。

* 画像ウィンドウでメニューから [編集] [連結] とする方法もありますが、ドラッグを用いた方法の方が直感的で簡単にできます。

保存

一口に画像と言っても実はかなり多くの形式があります。その中でホームページにも使えて現実的な形式で、なおかつ ViX が対応しているのは JPEG (ジェイペグ) と PNG (ピエヌジー / ピン) です。

JPEGで保存

普通、写真は JPEG^{注13)}で保存します。多くのデジカメも、JPEG を基本にしています。

ViX では画像ウィンドウで [ファイル] [JPEGで保存] を選ぶことで JPEG での保存を行います。



[JPEGで保存] を選択すると次のようなウィンドウが現われます。



左上のスライダーは JPEG の画質を指定します。JPEG は画質を高くしたり低くすることで

できあがりのファイルサイズを変化させることができます。きれいさよりもファイルの小ささを優先する場合（ホームページ上の画像など）は画質を低め（スライダーでは左の方、数字の小さくなる方）に設定します。逆にきれいに保存したい場合はスライダーを右の方にずらし、「画質」の数字を大きくします。ただし、90台の後半から100に掛けてはできあがるファイルのサイズがそれまで（もっと画質の低いとき）に比べてかなり大きくなります。

画質の変化は二つ並んだ画像ウィンドウで比べることができます。**[プレビュー]** を押すと**現在の画質の設定でどのような画像が保存されるかをチェック**できます。左がオリジナルの画質、右がこれから保存しようとしている画質の状態です。サンプルでは画質 54 で保存しようとしているのですが、左のオリジナルの写真に比べて、明らかに劣化しているのが分かります。特に窓枠などの「線の周辺」にモヤモヤした模様が見えます。これは「モアレ」と呼ばれる JPEG 特有の圧縮ノイズです。画質を高くするとこれは目立たなくなります。

余計な気を使いたくない場合はそのまま [次へ] を押してください。 ViX では JPEG で保存のときにオリジナルの画質をそのまま引き継ぐ設計になっているらしく、そのまま保存すればファイルサイズが大きくなることも画質が劣化することもなく保存し直すことができるようになっています。^{注14)}

[次へ] を押すと



このような保存先フォルダ、保存するファイルの名前を決める、Windows のいつものダイアログが現われます。

保存して関連ウィンドウを閉じる

ViX では画像に対して何らかの操作を行うと新たなウィンドウを開くことが多く、例えば反転して明るさや色を補正した場合、元の画像と合わせて画像ウィンドウが 3枚開かれていることとなります。でも普通はその中で保存したいのは最後のウィンドウだけなので、途中の画像や最初のウィンドウをわざわざ手作業で閉じるのは面倒です。

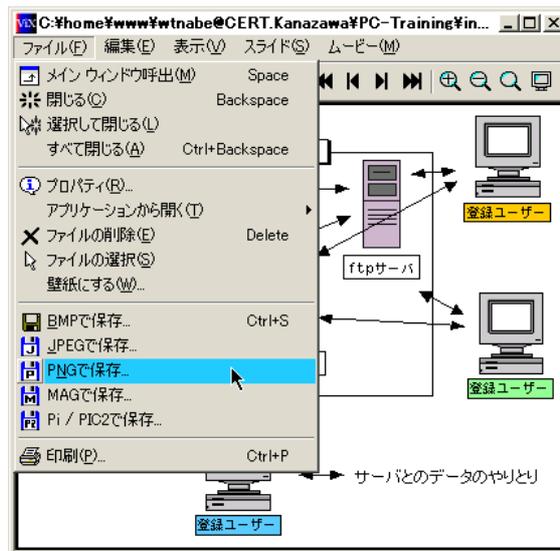
そこで保存するときに [保存して閉じる] ではなく、[保存して関連ウィンドウを閉じる] の出番です。これを使えばできあがった最後のウィンドウだけ保存して、編集途中のウィンドウを全部自動で閉じてくれるのです。

PNGで保存

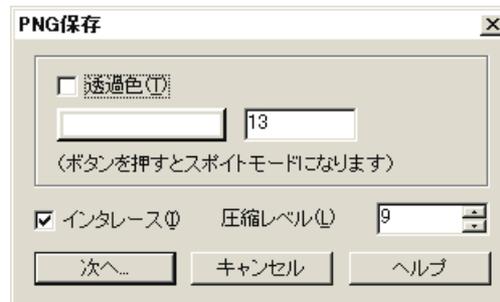
PNG は GIF^{注15)} に代わるものとして登場した画像形式で、JPEG のような画像の劣化がなく、GIF のように 256色までの制限のないものです。

ホームページ用の画像としては今でも GIF、JPEG が PNG よりも知名度、普及度ともに高いようですが、ViX では GIF 形式での保存はサポートされていないので代わりに PNG で保存を行うことになります。この形式は JPEG ほど大胆にファイルサイズを小さくすることはできませんが**画質の劣化がないので例えば地図やイラストなどの図の保存に適しています。**

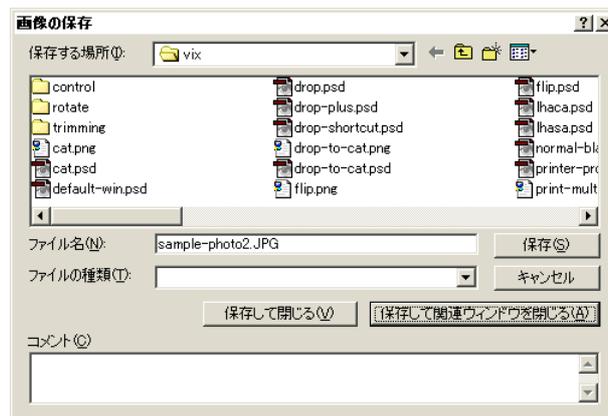
ViX では画像ウィンドウで [ファイル] [PNGで保存] を選ぶと



以下のようなダイアログが現われます。



普通はここでは何もいじる必要はありません。何かしたい人は自分で調べてください。そのまま [次へ] を押します。

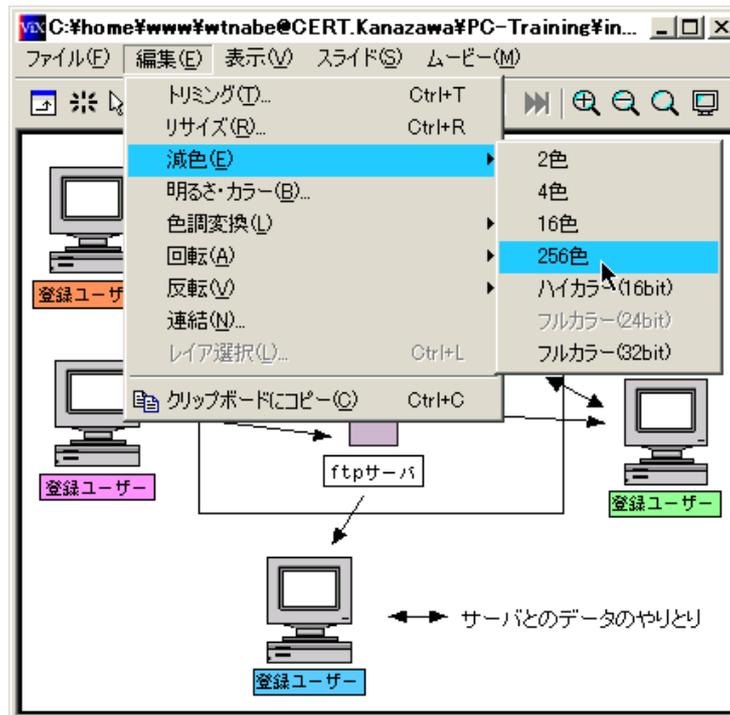


するとおなじみの保存のダイアログになるので、保存先とファイル名を決めて保存してください。

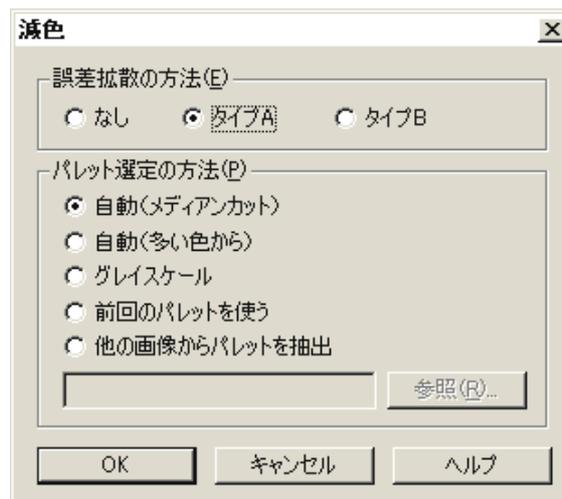
減色

PNG では JPEG と違って画質の劣化が起きない代わりに、そのままではそれほど大胆に圧縮を掛けることができません。しかし PNG で保存しつつもファイルサイズにこだわりたい場合もあります。

そういうときは減色処理を行います。画像ウィンドウで [編集] [減色] 「色数」とメニューを選びます。



普通、説明用の図はそれほど多くの色数を使わないので 256色程度で十分です。注16)



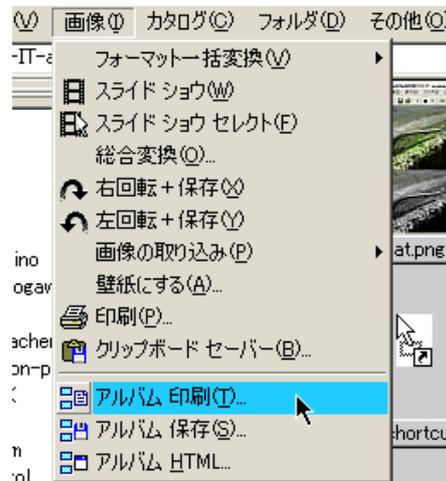
次にこのようなダイアログになるので、減色処理の方法を選びます。誤差拡散の方法を「なし」にしておくと、若干色が狂うことはありますが、見た目はきれいに減色できます。[OK] を押すと減色した結果の画像が新たなウィンドウで現われるので、結果に納得がいったらそれを保存します。

アルバム作成

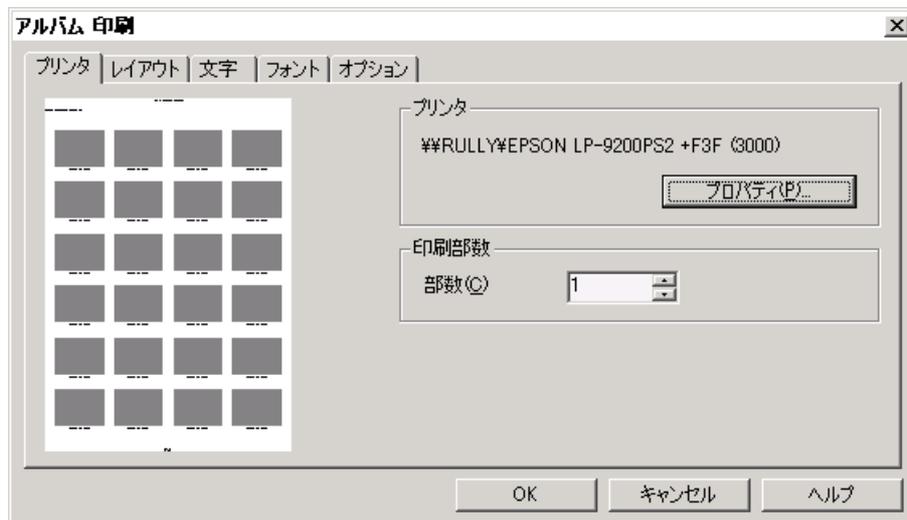
ViX のカタログ表示を見るには、実際に ViX を立ち上げてカタログの情報がほしいフォルダにアクセスする必要があります。普通はこれで困らないのですが、画像の入っているフォルダにアクセスできない人、あるいはアクセスしない人にカタログを見せたい場合もあります。そのような場合にはアルバムを作成します。

アルバム印刷（縦横の枚数を決めて印刷）

フォルダの中身を一覧できるように印刷します。



メインウィンドウでメニューから [画像] [アルバム印刷] を選びます。

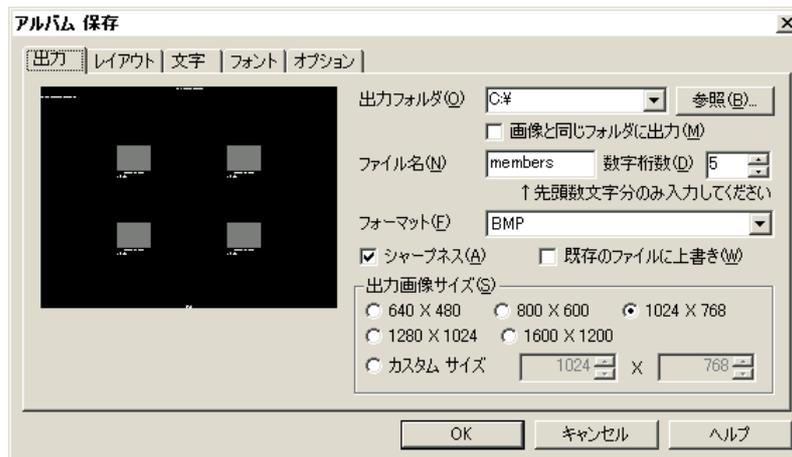


するとこんなダイアログが出てきます。（プリンタを変更したい場合は [プリンタ] タブの [プロパティ] を押します。）

選択した画像だけを印刷するなどの機能もありますが、その辺の細かい話は端折ります。何も考えずに [OK] を押せばフォルダの中の画像をサムネイルで並べたものが、画像の分だけ印刷される、という具合になってます。ダイアログを見て分かるようにだいたい見やすい感じで印刷されます。

アルバム保存（アルバムを一枚の画像として保存）

これは印刷じゃなくて一覧表示を画像として保存する機能です。こちらは



ご覧のようにそのままだとけっこうまぬけな感じになってしまうのであれこれ調整する必要があります。でも、「とりあえず手っ取り早く」のコンセプトから外れるので端折ります。普通はわざわざ画像として保存しなくても印刷できれば問題ないと思いますので、こだわる人は自分で挑戦してみてください。

アルバムHTML (カタログを作成してHTMLの書き出し)

これはホームページ用です。



これも特に細かい設定をしなくても下のようなページを作ることができます。



こうしてできたページでは、一つ一つの画像にリンクが張られ、画像をクリックすると大きなサイズで見ることができます。

* ただし、ホームページに使えない形式のファイルが同じフォルダに入っているとちょっとややこしいことになるので、写真だけしかないフォルダで実行するように注意してください。

設定・カスタマイズ

ViX はそのままでも十分に使えるソフトなのですが、有効に活用するために少し設定を変更しておくことでより気持ちよく使えます。

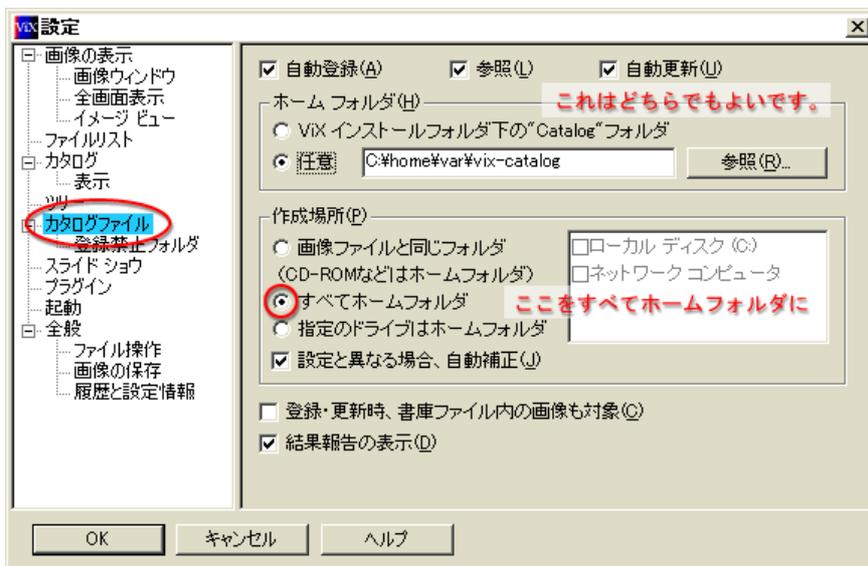
設定を変更する場合、多くはメインウィンドウのメニューから [その他] [設定] を選びます。



カタログをすべてホームフォルダに

ViX ではカタログ表示の際に「カタログファイル」を利用します。このカタログファイルにはサムネイルの情報が書き込まれています。注17) 標準状態の ViX ではサムネイルを表示させたフォルダごとに _CATALOG.VIX というカタログファイルを作るのですが、ViX だけでファイルの管理をしているならいざ知らず、Explorer など、他のソフトを使うとこのカタログファイルは丸見えなので、ちょっとかっこ悪いです。特にデスクトップにこのファイルがあったりするとけっこう気になります。

そこでこのカタログファイルを普段は見ることのない場所にまとめておきます。メインウィンドウの [その他] [設定] で以下のダイアログを呼び出します。

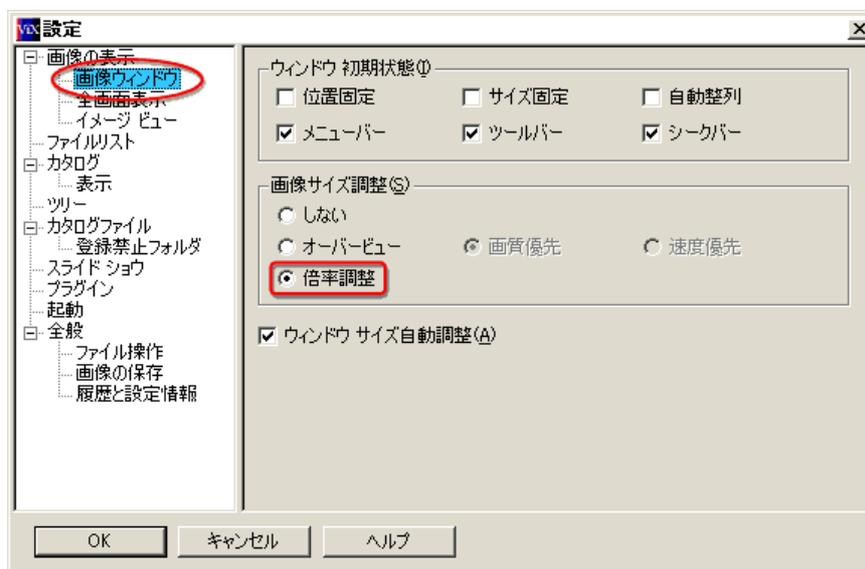


ご覧のように、「カタログファイル」の設定のところ、「作成場所」を「すべてホームフォルダ」にしておきます。すると、その上にある「ホームフォルダ」のところを設定したフォルダにすべてのカタログフォルダが作成されます。

倍率調整

ViX の画像ウィンドウは、標準では倍率 100% で表示するようになっています。しかし、最近のデジカメはどんどん高画質になっているので、写した写真がパソコンの画面に納まりきらないなんてことはザラです。

そこで画像ウィンドウでの画像の表示の仕方を変更します。メインウィンドウの [その他] [設定] で、「画像の表示」の中の「画像ウィンドウ」で「画像サイズ調整」の設定を「倍率調整」にしておきます。すると、0.25倍、0.5倍、0.75倍の中から適当な大きさに調整してくれます。もともとの大きさで画面に収まっている場合は何もしません。



注意が必要なのはオーバービューです。オーバービューも画像を開いた時の大きさを調整してくれるのですが、オーバービューは倍率調整と違い、見た目の大きさだけでなく、実際の画像の大きさを調整してしまいます。だから例えば画像ウィンドウに表示したあとにそれをクリップボード経由で他のソフトにコピーした場合などは、もともとのサイズの画像ではなく、縮小された画像が渡ります。

ファイルビューから新規フォルダ作成

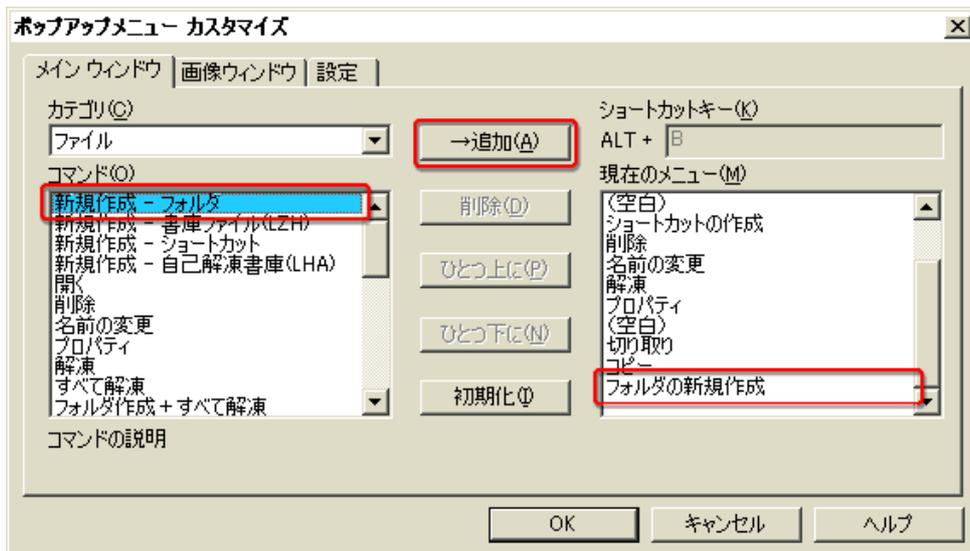
ViX を写真の整理目的に使っていると、新たにフォルダを作り、そこに特定の写真を移動する、などの作業が多くなってきます。このとき、標準の ViX ではファイルビューから新規フォルダを作成することができません。（フォルダビューからはできる。）

ファイルビューから作成できると便利なので、この設定を変更します。

メインウィンドウのメニューで [その他] [カスタマイズ] [ポップアップメニュー] と選びます。

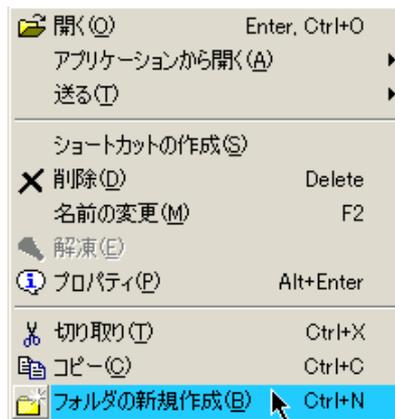


すると次のようなダイアログが現われるので、



[メインウィンドウ]タブで、「ファイル」カテゴリの中から、「新規作成 - フォルダ」を選び、真中の上の方にある [追加] ボタンを押します。「現在のメニュー」の中に「フォルダの新規作成」という文字が見えたらオッケー。

これでメインウィンドウのファイルビューの中で右クリックすると、下のよう

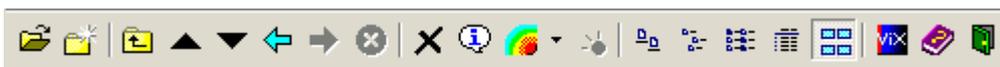


フォルダの作成が行えます。

ツールバーを消す

ViX は標準状態のままでは XGA でタスクバーを「常に手前に表示」にしていると（これも Windows の標準の設定）、全画面表示にしてもカタログ表示の部分にまぬけな余白ができます。（できない人は全画面表示じゃないか、あるいはすでにカスタマイズしています。）

このままではちょっと画面がもったいないので、きれいにカタログで埋め尽くしたいです。いろいろ方法があるのですが、いちばん簡単な方法は「ツールバーを消す」ことです。



ツールバーというのは上のものです。

これは一つの機能を一つのボタンに割り当ててあり、メニューを選ばずに操作できるために初心者には使いやすいように思えるのですが、慣れてくるとキーボードで操作できることが多いので、表示していなくてもそれほど困りません。

方法は、メインウィンドウのメニューから、[表示] [バー] [ツールバー] です。

【脚注】

- 注1) 主に縮小画像のことをサムネイルと呼ぶ。サムネイルというのは英語で Thumb Nail で、親指の爪のこと。親指の爪くらいの小ささ（豆粒ほどではないにしろ、小さい）という意味。
- 注2) サムネイルがたくさん並んでいる状態のこと。最近で言うと、写真の現像を頼んで返ってくるインデックスプリントのようなもの。
- 注3) 圧縮されているファイルのこと。ここではダウンロードしてくるファイルのことを指しています。
- 注4) [次へ][はい]を連打するやつです。
- 注5) 「なんじゃそりゃ？」という人は、Windows という OS に詳しくなりたいたいでなければ気にしないでください。分かる人はうんうんうなづいておいてください。
- 注6) この作業を一般に「解凍」と呼んでいますが、正しくは「伸張」あるいは「展開」です。
- 注7) アーカイブを操作するソフトのこと。一般的には圧縮・解凍ソフトと呼ばれます。
- 注8) コンピュータのことです。こう呼んだ方がカッコいい、ということもありますが、コンピュータは使っている機械や OS のバージョンなどによって「構成」が変わるので、基本的に私の使っているものとアナタの使っているものはベツモノです。その辺のニュアンスを含めてシステムと呼んでいます。
- 注9) 1024*768 の画面サイズ。最近のパソコンではかなり標準的なサイズ。
- 注10) Ver.2.1 ではそうなっています。今後バージョンが上がった場合、この挙動は変更になる可能性もあります。
- 注11) 画像のいらぬ部分を切り取ることをトリミングと言います。これは一般的な写真用語なので覚えておいて損はないです。
- 注12) 従来の写真は露出（撮影時の明るさの調整）とフィルムとフィルターの調整でこういう色彩の調整を撮影時に行う必要がありました。多くの経験とフィルムの消費が必要でした。
- ただし、今でも適切な色を生み出すためには色を見極められるように「目を鍛える」必要があることは変わりません。
- 注13) JPEG は複雑な自然画の情報を間引きしつつ圧縮するので、かなり大胆にファイルサイズを圧縮することができます。反面、一度圧縮を掛けると画質が落ち、その画質を元に戻す方法はありません。よって JPEG での圧縮（JPEG 形式で保存すること）は最後に行った方がよいでしょう。
- 注14) ただ、ヘルプを読んでみてもオリジナルの画質を引き継ぐとは書いてありませんでした。あくまで経験上の話であることをお断りしておきます。
- 注15) ホームページに使われる画像形式としてポピュラーなもの。元は CompuServe というパソコン通信で使われていたので CompuServe GIF と呼ぶこともある。近年、この GIF 形式に使われている圧縮方式の特許を巡ってあちこちで GIF 排斥運動が起きたりしている。以前 GIF が扱えたフリーソフトでもこの特許の問題で現在は使えなくなっているものが多い。
- 注16) なのに普通のグラフィックソフトは保存する時にフルカラーで保存するようになっています。使っていない色の分、ファイルサイズが大きくなってしまいます。だから減色が有効なのです。
- 注17) カタログに使われるサムネイルは元の画像から計算で作られます。カタログ表示するためには、一つ一つの画像についてサムネイルを作るために画像情報を取得して、指定のサイズまで小さくなるように計算する必要があります。フォルダにアクセスするたびに毎回この計算を行っていたのでは時間が掛かります。そこで ViX はサムネイルの情報をフォルダごとにまとめて「カタログファイル」として持っています。一度カタログファイルを作ってしまうと、次からはいちいち計算せずにカタログファイルの中身を表示すればいいので、フォルダを開くのが速くなります。一度見たことのあるフォルダを開くと、一回目よりも速く表示されるのはそのためです。